

山行番 No. 1645
日 時 2015. 5. 30 (土) 晴
山 域 丹沢・檜洞丸 (1601m)
標高差 上り 西丹沢自然教室 641m～檜洞丸 1601m＝約 960m
下り 同上

参加者 (数値は現地で量ったザックの重さ)

1. 後藤 8.3kg (車)
2. 浜道 10kg (車)
3. 小松 6.9kg
4. 室伏 10kg
5. 勝又薫 5.1kg
6. 長谷 5.3kg
7. 秋山 8.1kg
8. 水落 4.1kg
9. 沖 4.8kg
10. 井上 10kg＝ (10名)

参加費 2000円＋ (ぶなの湯＝700円)

今回のテーマは、「シロヤシオツツジを愛でる (夏山訓練)」だったが、結果として、花は遅くシロヤシオは終わっていた。夏山訓練としては、出発前に各自の荷物の重さを測った。結果は上の参加者名の後ろに記入した。

5:00 長泉発。裾野市役所にて浜道車と合流。6:10 西丹沢自然教室駐車場着。自然教室の人が登山者に登山届の記入提出を呼び掛け、後藤さんが対応。

翌日イベントがあるらしく自然教室前にロープが張られ駐車場が使えない。翌日の天気予報が雨の為、山行は土曜日になり、混雑を予想して1時間繰り上げての計画だったが、すでに道路沿い山側の駐車場もかなり入っている。隅の方に2台とめることができた。

6:25 駐車場出発。今回は私が先頭。30分ほどアスファルト道路を歩く。6:50 登り口より入る。用木沢にかけられたいくつかの丸太の橋を渡る。有名な用木沢の斜めの大きなブナは、途中で折れてしまっていた。沢を離れ急登が始まる。30分、1時間たっても休憩は入れない。途中、休憩中の高校登山部の団体やいくつかのグループを追い越したが、一度も追い越されることはなかった。

8:03 犬越路着。休憩を入れる。今日トップの私のスピードがゆっくりだと言われたが、山が1ヶ月ぶりで10kg背負っての急登ではこれで精いっぱいだ。(言い訳です。この1ヶ月の間に、インフルエンザで1週間会社を休み、連休に体調を崩し寝込んでいたということもあり思ったより元気いっぱいではないのかもしれない。また、前日に転勤の話があり心も不安定だったかもしれない。) 休憩を入れず1時間半登り続けることができたということは、早さもちょうどよいと言えるだろう。ここからは軽い登りと平坦な道が繰り返し、時折急な岩場でロッククライミングを味わえる。変化に富み、山登りのいろいろなことを体験できる楽しい道だ。空は真っ青の晴れで、時折、富士山がドーンと現れ、今話題の箱根大涌谷の噴煙(水蒸気)もいつもより高く大きく上がっているように見えた。5月の新緑は太陽の光が逆光で輝き目を見張る。9年前に初めてさわやかハイキングに参加した5月山行も緑に感動したことを思い出した。見下ろせば山々が深い。遠くに、この後体験する長い階段とハシゴが見える。きつい。

10:30 檜洞丸着。正午にはまだ早いので、人は多いがいつものような混雑はない。ここで1時間の昼休憩。11:30 丹沢ブナ党の4名が、調査に登ってきた。6名の予定だったが1人が体調を崩し、1人付き添って下山したため人不足とのこと。調査の手伝いを頼まれ、勉強を兼ね快く引き受けた。「方形区調査」といい、20m四方にロープを張り、さらに5m四方で区切り、マスごとに詳細に調べ記録する。樹木(ブナ、アサハカエデ、ハチリカエデ、サカゲルミ、ヒコダシメシヤ)については胸高で胴囲を測る。



荷物計量



ホウの花



西湘高校生



腕をもがれた
用木沢の巨人



高さ 50 センチくらいのバイケイソウをかき分け、アザミにチクチクしながら、数センチから数 10 センチのブナを葉っぱの形を頼りに探した。うまく見つけられる人と、そうでない人に分かれた。興味をもった少年が手伝ってくれ、たくさんのブナを発見した。御手伝いは 1 時間とし、12:30 に下山開始した。

シロヤシオが終わってしまった木道・ハシゴ・階段を下る。まだまだ登ってくる人が多く、順番待ちのシーンが多い。それが終わると、急坂でゴロゴロ石ばかりの道になり神経をすり減らす。膝も痛くなってきた。

ゴウラ沢出合いでは、川を渡るために石の上を歩くが、私を含め数人が失敗し着水。最後は東沢の河原にでて、14:57 駐車場に戻った。

ぶなの湯で汗を流しさっぱりし、長泉には 17:30 到着。

その他の記述（後藤）

1. 高校は、神奈川県立西湘高等学校（かながわけんりつせいしょうこうとうがっこう）は、神奈川県小田原市に所在する公立の高等学校。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール認定校。通称「西湘（せいしょう）」、「西湘高校（せいしょうこう）」。引率の先生は 25 歳で、生徒と見分けがつかなかった。「先生は何方??」問いに大笑い。
2. スーパーサイエンスハイスクールとは、文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度のことである。SSH と略記される。2002 年（平成 14 年）度に構造改革特別要求として約 7 億円の予算が配分され、開始された。
2007 年（平成 19 年）度予算では約 14 億 4443 万円、2010 年（平成 22 年）度予算では約 20 億 6500 万円、2011 年（平成 23 年）度予算では約 24 億 400 万円が配分されており、増額傾向にある。
3. 用木沢の象徴的大ブナは、残念だった。もがれた幹が斜面に転がっていた。
4. 犬越路避難小屋には、立派なトイレがある。途中、下って来たオジサンは前夜、宿泊とのこと。
5. 用木沢の道は、以前に比べ、非常によく整備された。特にビニール袋は摩擦が利いて歩き易い。しかし、あれだけ整備するのは、相当な労力だろう。感謝。
6. 犬越路から檜洞の上りは、数々の思い出がある。数年前、夏山訓練で 20Kg 背負って 10 数名行動中、当時ここで行った、トレイルランの連中 200 名と遭遇。こちらはアリさん、向こうは馬車馬。岩場が多い厳しい上りで、「激しい罵声・怒号を浴びて」現場は、修羅場になった。しかし、その様子を私が山岳雑誌「岳人」に投稿し、結果的にここでのトレイルランは永久的に中止になった。
7. また、2008 年 2 月、バカ尾根で亡くなった M さんを含め、モーレッツなラッセルで苦労したことがある。自然教室 7:10 - 檜洞丸 15:00 (!!) - 自然教室 17:45、という山行だった。(HP「いままでの山行」に記録あります。
8. 頂上で、丹沢ブナ党（党首～??!!）梶谷氏に会った。梶谷氏とは、会創立の頃からの古い付き合いで、かれこれ 20 年。県連の講演を依頼したり、天城・愛鷹で交流山行も行った。当会が愛鷹連峰で、ブナ定点観察を春・秋行っている。それと同じような調査・観察をブナ党も丹沢で行っている。それは、「方形調査」を呼び、毎回同じ場所で 5m×5m の範囲のブナのあるなし、ブナ樹高計測・ほか樹木の太さを調べる。
9. 方形調査に参加していた年配の女性は以前、天城ブナ交流山行に参加したといった。当時、私の歩行速度が驚異的だったと懐かしがっていた。
10. 頂上で檜洞丸・青ヶ岳山荘の若い歩荷さんと会った。聞けば荷物は「40Kg」といった。背負子の一番下は、350ml の缶ビアが一箱横になっていた。皆さんが小屋で美味しいビアを飲めるのは、このような方が存在するからですね。
11. ツツジ新道のシロヤシオも、全く期待外れだった。

12. ツツジ新道を遅い時間に上って来る方が何人かいた。聞けば「今日は山荘泊り」といった。「美味しいお酒を持って来ましたよ」と、誘われたが・・・。(笑い)
13. ゴーラ沢先から、東沢を下った。こちらの道は楽だった。



ヤマツツジ



ミツバツツジ



檜洞丸頂上



梶谷氏



方形調査

10年位のブナ



40Kg
歩荷さん





以上